

(そのとき、イエスは弟子たちに言われた。)
「わたしの言葉を聞いているあなたがたに言うておく。敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にきなさい。悪口を言う者に祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい。あなたの頬を打つ者には、もう一方の頬をも向けなさい。上着を奪い取る者には、下着をも拒んではない。求める者には、だれにでも与えなさい。あなたの持ち物を奪う者から取り返そうとしてはならない。人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな恵みがあるろうか。罪人でも、愛してくれる人を愛している。また、自分によくしてくれる人に善いことをしたところで、どんな恵みがあるろうか。罪人でも同じことをしている。返してもらおうことを当てにして貸したところで、どんな恵みがあるろうか。罪人さえ、同じものを返してもらおうとして、罪人に貸すのである。しかし、あなたがたは敵を愛しなさい。人に善いことをし、何も当てにしないで貸しなさい。そうすれば、たくさんの報いがあり、いと高き方の子となる。いと高き方は、恩を知らない者にも悪人にも、情け深いからである。あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。」 -ルカ6章-

真の愛に生きる聖霊の人

師匠は、自分の生き方を弟子に示し、弟子の手本となる人物です。それで師匠のようになりたい人は弟子入りします。「洗礼」は、イエスの弟子になることですから、キリスト者はみんな、イエスを師匠として、イエスの教える生き方を、残らず学んで身に着けるための、生涯修行者でもあります。

本日の典礼で、イエスの教えは、先週に続いて、福音の核心が語られ、意表を突く教えです。ちなみに、先週の教えは、「神」と「この世の富」の選択による 幸・不幸についてでした。それは 世の富で満腹している人の不幸には、聖霊が入る余地がなく悪霊の支配下にあり、従って、幸せになるためには、聖霊で満腹した「愛の人」にされるよう この世の富に貧しくありなさい。 という教えでした。罪の世界で真面目に生きようとする、必ずや迫害があるものです。

今日の教えは、敵に対する「心の持ち方とその対応」についてです。それは、「迫害、妨害には、抗うことなく、愛に飢えた可哀そうな敵に あなたの持っている愛を与えてあげなさい。そのためには、あなたの心に自我ではなく聖霊を持つ必要があるのです」という教えです。

自我は、悪霊が隠れて住むことが許されている唯一の場所で、私たちが悪に走るのは、その悪霊にコントロールされているからなのです。それ故、私たちは日々、自我に死ぬことによって悪霊に場を与えず、聖霊をいただくための修行を怠らないよう心しなければなりません。

この悪霊の力を殺ぐ唯一の方法は、悪に愛を返す事だとおっしゃる主イエスの教えは、キリスト者として最も栄えある愛の教えであり、その実践は世界が救いに向かう福音なのです。敵を愛するとは、敵を好きになることではなく、敵の救いを心から神に祈ることに他なりません。 敵を許す、敵に塩を送るのは、みんな聖霊のなせる業だからです。

